

社会資本総合整備計画 中間・事後評価

平成29年3月

【担当及び関係課】市民局国際平和推進部平和推進課

計画の名称	平和記念公園内における良質な既存ストック形成		
計画の期間	平成25年度～平成27年度		
計画の目標	平和記念資料館の展示効果を高めるため、現行の観覧動線を見直す中で、主要な移動手段が階段利用となっている東館について、ユニバーサルデザインに対応した施設とするため、新たにエスカレーターを設置するとともに、展示室内の通路部分の拡張や、手すりの設置等を行い、来館者の利便性の向上や快適な観覧環境の創出を図る。		
計画の成果目標（定量的指標）	来館者数を平成24年度から平成28年度で1割増とする。		
定量的指標の定義及び算定式	定量的指標の現況値及び目標値		備考
	当初現況値 (H24当初)	中間目標値 (H26末)	最終目標値 (H28末)
平成19年度～平成22年度における各年度来館者の対前年度伸び率の平均を基に目標値を算定する。（平成23年度は東日本大震災の関係で減少幅が大きいため対象外とする。）	121万人	—	133万人
			※中間目標は任意

評価事項

1. 要素事業の進捗状況

事業費	H26	21 百万円	【1-A-1 広島平和記念資料館エスカレーター設置等施設整備事業】 今回の計画期間中において、資料館東館内にエスカレーター1台を整備した。 【1-C-1 広島平和記念資料館展示整備】 今回の計画期間中において、資料館東館内の誘導サインを整備した。
	H27	1 百万円	
		百万円	
		百万円	
	合計	22 百万円	

2. 事業効果の発現状況、目標値の実現状況

要素事業の 効果の発現状況	<ul style="list-style-type: none"> ユニバーサルデザインに対応した施設とするため、資料館東館にエスカレーターを設置する計画に対し、計画通りエスカレーターを1台整備した。 展示の観覧環境の向上を図るため、資料館東館の展示整備を行う計画に対し、誘導サインを整備した。 <p>以上の整備により、来館者は増加し、目標を達成した。</p>		
目標値の実現状況	指標： 来館者数を121万人から1割増加させる。		
	中間目標値 (H26末)	最終目標値 (H28末)	目標値と実績値に差が出た要因
		133万人	
	中間実績値 (H26末)	最終実績値 (H28末)	成果目標の達成状況：目標達成 G7外相会合の開催や米国大統領の訪問が契機となり、予想以上の来館者を迎えたことから大幅に目標値を超えた。
	160万人		
要素事業に併せて実施した他事業の効果の発現状況、及び本計画以外に設定した目標値の実現状況	指標：		
	中間目標値 (H26末)	最終目標値 (H28末)	目標値と実績値に差が出た要因
	中間実績値 (H26末)	最終実績値 (H28末)	

3. 今後の方針

当該社会資本総合整備計画では、資料館東館へのエスカレーターの設置や展示室内の誘導サインの整備を行った。今後は、平成31年の全館リニューアルオープンにむけ、文化庁補助金等を活用して引き続き資料館本館の改修（免震化や展示更新）を進めていく。

4. その他特記事項